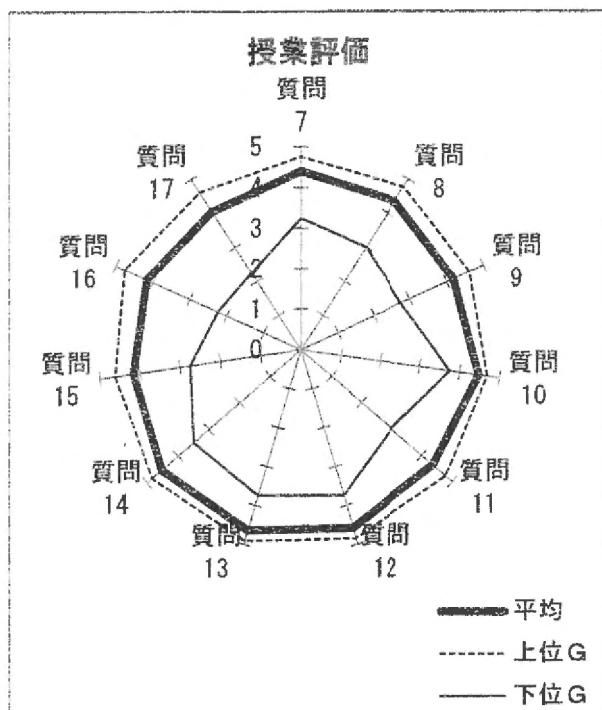


# 科目コード 720 (2017年度 後期)

健康生活学部 生活デザイン学科 津田 礼子 芸術・文化論Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.4	4.8	3.3
質問8	4.4	4.8	3.0
質問9	4.2	4.6	2.8
質問10	4.5	4.7	3.8
質問11	4.4	4.8	3.0
質問12	4.6	4.8	3.8
質問13	4.6	4.9	3.8
質問14	4.5	4.8	3.5
質問15	4.2	4.6	2.8
質問16	4.2	4.8	2.3
質問17	4.1	4.6	2.3
平均	4.4	4.7	3.1

質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問8：教員の授業時間遵守

質問9：教員の話し方

質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11：教員の説明のわかり易さ

質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

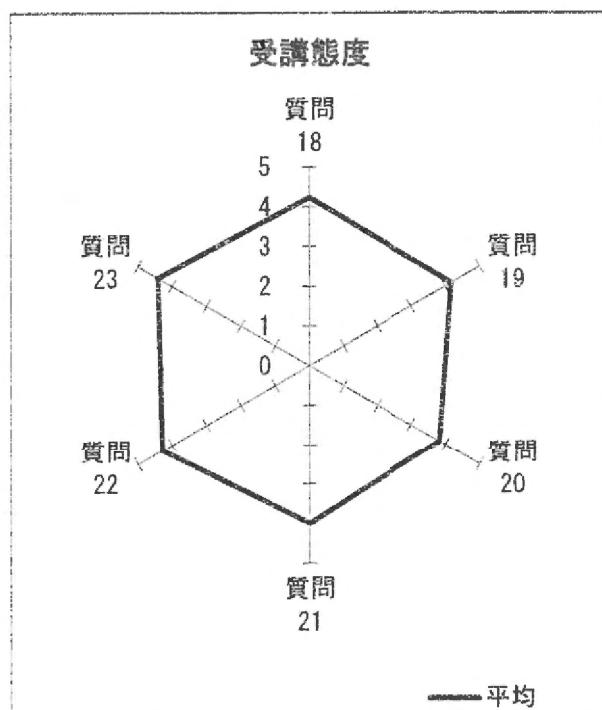
質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14：学生の理解度の確認と授業への反映

質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか

質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.2
質問19	4.2
質問20	3.8
質問21	4.0
質問22	4.3
質問23	4.4
平均	4.2

質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21：授業の予習・復習をおこなったか

質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾向

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	津田 礼子	芸術・文化論Ⅱ 人間関係学科の「ヨーロッパ思想」を同時開講	18 6 計 24

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

全質問項目の平均は4.4であるが、上位Gと下位Gに評価の開きがある。特に質問11.教員の説明のわかり易さ、質問15.（自分は）授業を理解できたと思うか、質問16.授業は興味・関心・意欲を引き出したか、質問17.新しい知識・技術・理論等の修得への有用において、その差が大きい。質問11は上位G4.8、下位G:3.0、質問15は上位G:4.6、下位G:2.8、質問16は上位G:4.8、下位G:2.3、質問17は上位G:4.6、下位G:2.3である。

授業の理解度と教員の説明のわかり易さ、興味・関心・意欲を引き出せたかどうかとの関係が明確に出ている。この授業はスライドの作品（主に絵画）を鑑賞して、個人の考察を促すという内容であるが、個別に意見を聞き、グループ討論とグループ発表を行うので、理解度を掌握しやすい。また、ノートの提出も行っているので、ノートからもそれがよくわかる。

今後は理解度の低い学生への対応を検討したい。

## II. 2018年度に向けての取り組み

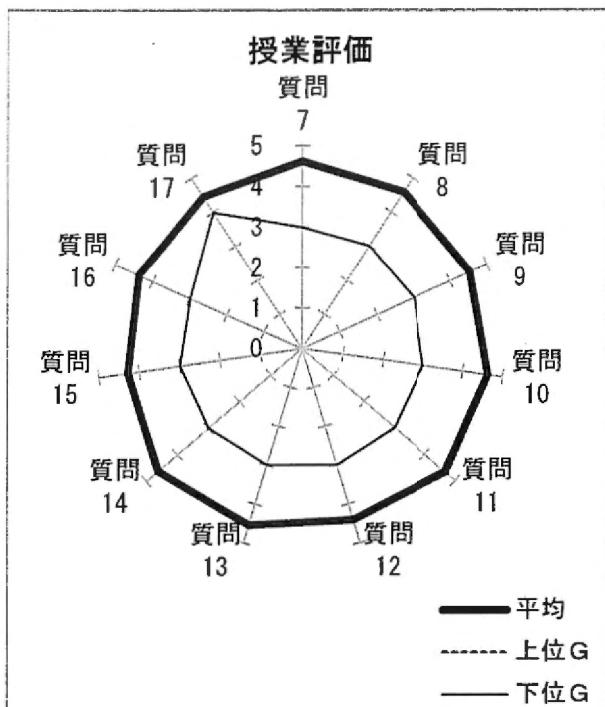
2018年度担当予定科目名：環境デザイン演習

（同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。）

この演習では工程の決まったものを完成させるのではなく、いくつかの問題提起を行って試行錯誤を行い、屋外空間のデザインを考えることを目的としている。学生のアイデアを見ながら、個別に問題を提起していきたいと思う。

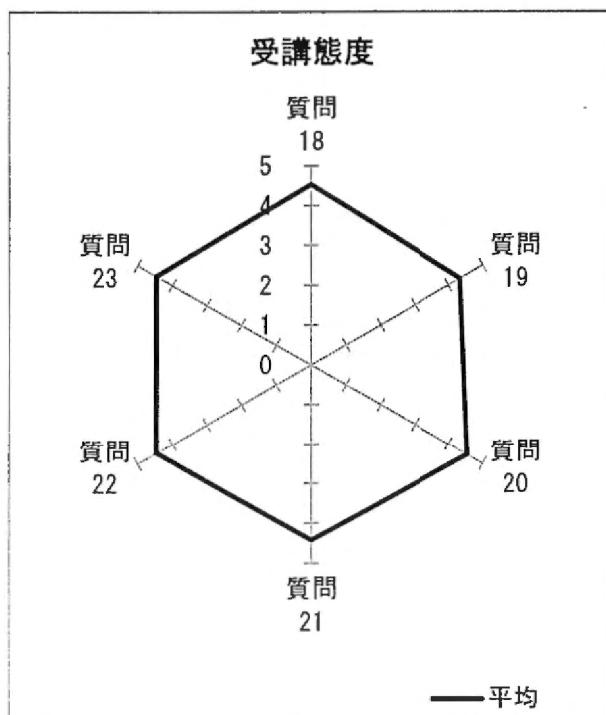
# 科目コード 731 (2017年度 後期)

健康生活学部 生活デザイン学科 寺田 貴子 アパレル科学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.7	3.0
質問 8	4.6	4.7	3.0
質問 9	4.5	4.6	3.0
質問10	4.6	4.7	3.0
質問11	4.7	4.7	3.0
質問12	4.4	4.5	3.0
質問13	4.5	4.6	3.0
質問14	4.6	4.7	3.0
質問15	4.3	4.3	3.0
質問16	4.4	4.4	3.0
質問17	4.5	4.5	4.0
平均	4.5	4.6	3.1

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8 : 教員の授業時間遵守  
 質問 9 : 教員の話し方  
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ  
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）  
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか  
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.3
質問20	4.5
質問21	4.4
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.5

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）  
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活	生活デザイン	寺田貴子	アパレル科学	21名

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

## I. 分析と評価

教員の授業評価における質問項目7から17に対し、各評価の平均値は4.3から4.7の範疇にあった。最も評価が高かった項目は、質問11・「教員の説明のわかり易さ」の4.7で、その次に評価が高かった項目は、質問7・8・10・14の「授業目標説明とシラバスに沿った実施」・「教員の授業時間遵守」・「教材・機器・板書等の効果的使用」・「学生の理解度の確認と授業への反映」の4項目で、それらの評価・平均値はいずれも4.6であった。他方、評価が比較的に低かったのは質問15・「(自分は)授業を理解できたと思うか」の、評価・平均値4.3であった。

全11項目の質問に対する評価結果を示した「くもの巣グラフ」の形状は、比較的に大きな円に近いバランスがとれた形で、評価のばらつきが小さかったことから、本授業は全体として概ね良好であったと、受講生から評価されたとみなされる。

他方、学生の受講態度における質問項目18から23に対し、各評価の平均値は4.3から4.5の範疇にあった。最も評価が高かったのは質問18・20・22・23「(自分は)授業に真面目に取り組んだと思うか」・「欠席回数」・「レポート・課題等に積極的に取り組んだか」・「私語・携帯電話の自粛、教員及び他受講生の発言傾聴」の4.5で、次に質問21の「授業の予習・復習をおこなったか」の4.4であった。

全6項目の質問に対する結果を示した「くもの巣グラフ」の形状は、比較的に大きな正六角形に近いバランスがとれた形で、評価のばらつきが小さかったことから、本授業における学生の受講態度は、全体として概ね良好であったとみなされる。

「アパレル科学」の授業内容は、科学的な基礎学力、特に、化学、数学、生物など自然科学分野の基礎知識を要するもので、生活デザインの分野のみでなく教職課程（中高家庭科）においても重要な科目のひとつであることから、1年次の選択必修科目としてきたが、次年度からは必修科目に位置づけられる。本アンケートの結果、授業に対する教員の説明や時間遵守、教材等の準備などの姿勢は受講生に一致して良い評価を受け、学生の授業への参加意識も良好であったことが示唆されたと、分析・評価する。

## II. 2018年度に向けての取り組み

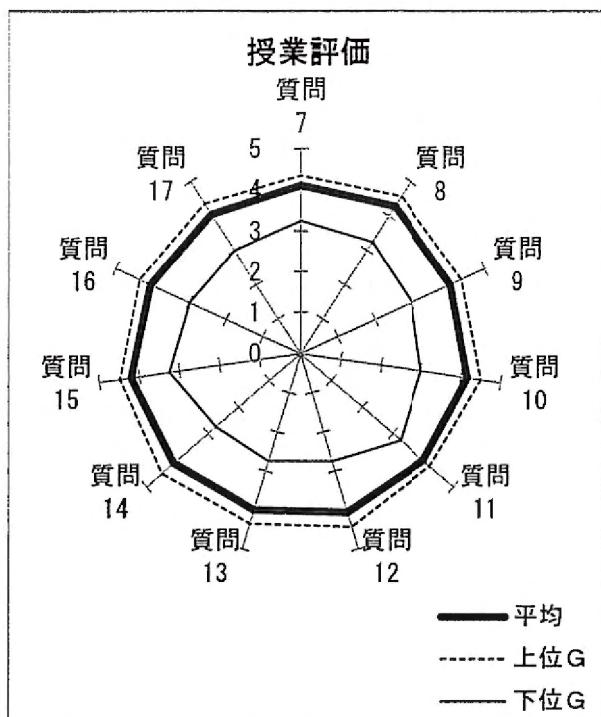
2018年度担当予定科目名：アパレル科学

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

- 授業の評価が比較的高かった「教員の説明のわかり易さ」(4.7)については、次年度も継続して取り組む。
- 評価の平均値が4.3と比較的低かった「(自分は)授業を理解できたと思うか」については、たとえば、受講生がより理解しやすいような説明、資料や視聴覚教材を再検討するなど、効果的な授業となるように工夫する。
- 本授業は、生活デザインにおける衣生活分野を科学的に理解する上で重要な学修科目であるため、より質の高い授業となるよう、次年度も継続して改善に取り組む。

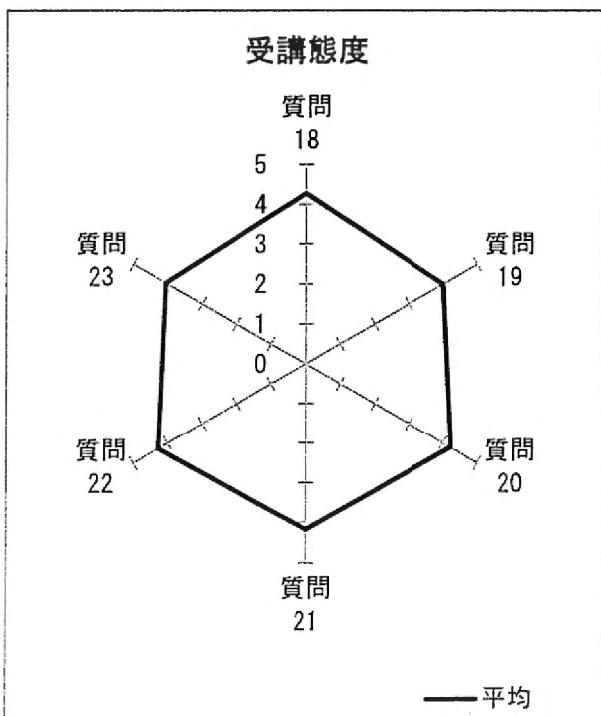
# 科目コード 744 (2017年度 後期)

健康生活学部 生活デザイン学科 浜谷 信彦 プロダクトデザイン I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.1	4.4	3.3
質問 8	4.3	4.6	3.3
質問 9	4.1	4.4	3.0
質問10	4.2	4.5	3.0
質問11	4.0	4.2	3.3
質問12	4.1	4.4	2.8
質問13	4.0	4.4	2.8
質問14	4.1	4.5	2.8
質問15	4.2	4.5	3.3
質問16	4.1	4.4	3.0
質問17	4.1	4.4	3.0
平均	4.1	4.4	3.0

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施  
 質問 8 : 教員の授業時間遵守  
 質問 9 : 教員の話し方  
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用  
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ  
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）  
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応  
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映  
 質問15 : （自分は）授業を理解できたと思うか  
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか  
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.0
質問20	4.2
質問21	4.2
質問22	4.3
質問23	4.1
平均	4.2

- 質問18 : （自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか  
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか  
 質問20 : 欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）  
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか  
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか  
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	浜谷信彦	プロダクトデザインⅠ	18

## 2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

### I. 分析と評価

本講座「プロダクトデザインⅠ」の他「プロダクトデザインⅡ」少量生産から段階的に大量生産へのデザインを学び、「インダストリアルデザイン」量産を前提とした商品企画からのデザインを学ぶ科目群を配置している。本講座「プロダクトデザインⅠ」では、型による形の制約、収縮などの素材・技法の特性を理解した上で、量産デザインの基礎とプロセスについて学んでいく。また、プレゼンテーション用の写真撮影やCGでの画像補正加工も行っている。各工程においてスマーラル・ステップを心掛けている。実習助手と連携しサポート体制を整えている。

授業評価は、平均値はすべて4.0以上で、質問項目8、10、15、が少し高かった。講義科目や以前の同実習科目と比較しても、上下のバラつきがあり平均値も下がっていることが窺える。考えられる要因の一つとして、2017年度より時間配分を諸事情から実習系科目等で実習助手がサポートする場面を減少しており、本授業でも個々の学生への細やかなサポートが困難になったことがある。バラつきがあることから、変更点については十分見直していきたい。

### II. 2018年度に向けての取り組み

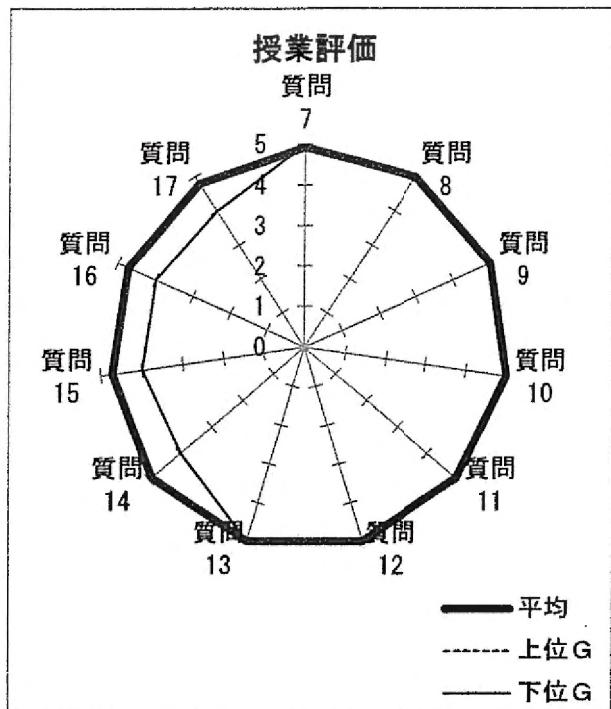
2017年度担当予定科目名：

- デザイン論
- プロダクトデザイン論
- ビジュアルデザイン論
- デジタルアート
- CGデザインⅠ
- CGデザインⅡ
- プロダクトデザインⅠ
- プロダクトデザインⅡ
- インダストリアルデザイン
- 陶芸
- 専門セミナー（3年・4年）
- 卒業研究
- 生活デザイン研修
- キリスト教と文化

実習科目においては学生個々の習熟度差や進度差があり、全員の効果的な学習のためには、実習助手のサポートが必要な場面がある。課題のボリュームや方法など工夫した上で、効果的な学びとなる様にサポート体制や授業環境整備など再度構築していきたい。また、授業において学生が能動的に参加する場面を増やすように工夫も重ねていきたい。

科目コード 760 (2017年度 後期)

健康生活学部 生活デザイン学科 橋口 剛 建築生産



質問項目	平均	上位G	下位G
質問7	4.9	4.9	5.0
質問8	5.0	5.0	5.0
質問9	5.0	5.0	5.0
質問10	5.0	5.0	5.0
質問11	4.9	4.9	5.0
質問12	5.0	5.0	5.0
質問13	5.0	5.0	5.0
質問14	4.9	5.0	4.0
質問15	4.7	4.8	4.0
質問16	4.7	4.8	4.0
質問17	4.8	4.9	4.0
平均	4.9	4.9	4.6

質問7：授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問8：教員の授業時間遵守

質問9：教員の話し方

質問10：教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11：教員の説明のわかり易さ

質問12：教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

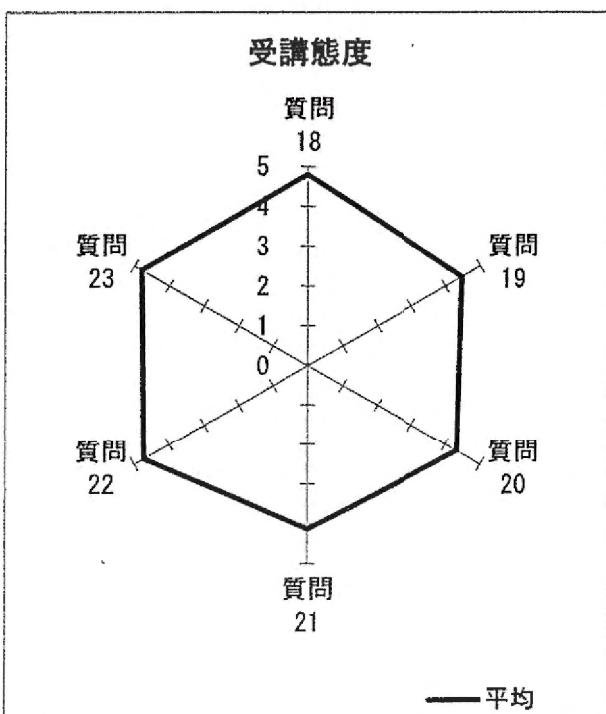
質問13：質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14：学生の理解度の確認と授業への反映

質問15：（自分は）授業を理解できたと思うか

質問16：授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17：新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.5
質問20	4.3
質問21	4.1
質問22	4.7
質問23	4.8
平均	4.5

質問18：（自分は）授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19：授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20：欠席回数（0回→5ポイント、1回→4、2回→3…）

質問21：授業の予習・復習をおこなったか

質問22：レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23：私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	橋口 剛	建築生産	

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

### I. 分析と評価

3年生の授業にして、当生活デザイン学科における、最もハードな内容の授業の一つとなるのが、建築生産の授業である。

建築が作られる過程について、材料の特性から施工管理に至るまで、順を追って説明する授業であるが、都度、その目的と意味について説明することを心がけたことにより、生徒の授業への理解は進んだのではないかと考えている。特に、施工管理をプロジェクトマネジメントの観点から説明した内容は、現実社会におけるマネジメントの必要性の観点から有意義なものとなったのではないかと考えてる。生徒の授業への評価は総じて、良好なものとなっているのは、そうした噛み砕いた説明と授業構成への工夫の結果と受け止めている。

### II. 2018年度に向けての取り組み

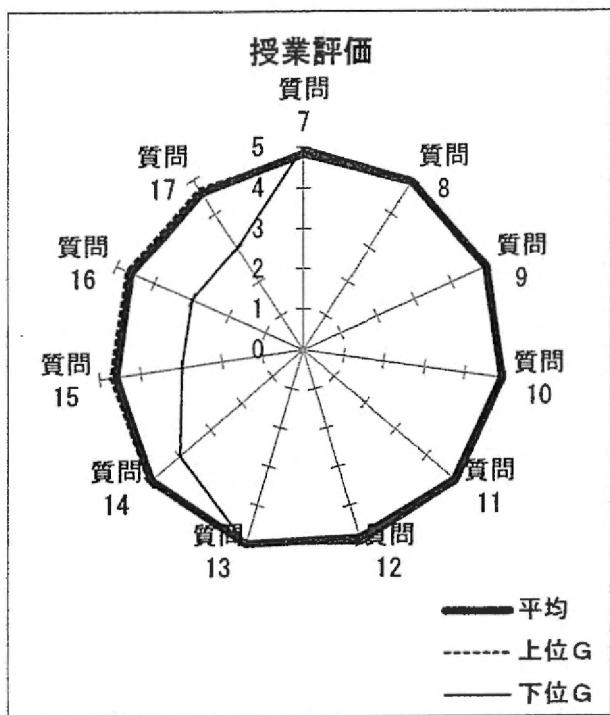
2018年度担当予定科目名：建築生産

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

2017年度の当授業は、私が着任してから初年度の授業ということもあり、試行錯誤をしながらの授業となった。2018年度は、講義型の授業構成に、アックティブラーニングの要素を取り入れ、生徒にさらに考えさせる授業内容に少しシフトしていきたいと考えている。内容がハードな部分も多いため、生徒の学習意欲が低下しがちであることから、生徒自身が積極的に授業参加を行える授業内容としていく予定である。

# 科目コード 761 (2017年度 後期)

健康生活学部 生活デザイン学科 橋口 剛 建築法規



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	5.0
質問 8	4.9	4.9	5.0
質問 9	4.9	4.9	5.0
質問10	4.9	4.9	5.0
質問11	4.9	4.9	5.0
質問12	4.8	4.8	5.0
質問13	5.0	5.0	5.0
質問14	4.9	5.0	4.0
質問15	4.6	4.8	3.0
質問16	4.6	4.8	3.0
質問17	4.6	4.8	3.0
平均	4.8	4.9	4.4

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話しか方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）

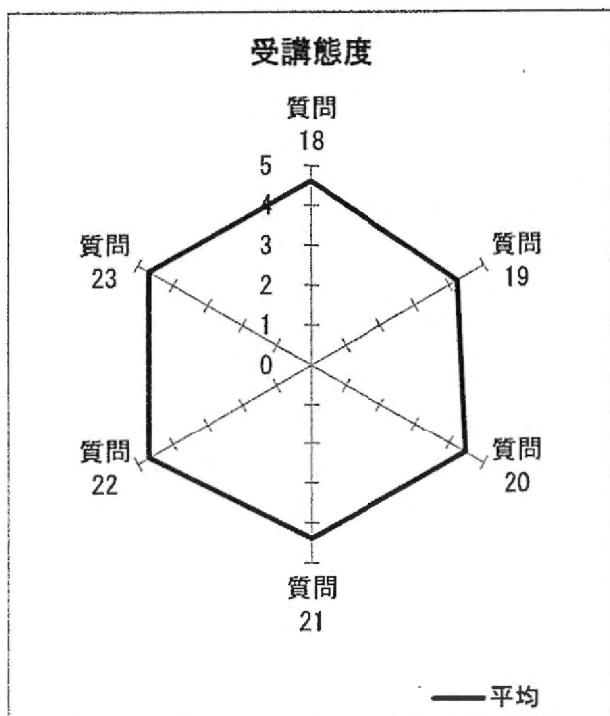
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.2
質問20	4.5
質問21	4.4
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学部名	学科名	担当者名	科目名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	橋口 剛	建築法規	

2017年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

### I. 分析と評価

当生活デザイン学科における、最もハードルが高く、生徒にとっても興味の持ちにくい授業の一つとなるのが、建築法規である。

建築に関する法律について説明する授業であるが、都度、その目的と意味について説明することを心がけたことにより、生徒の授業への理解は進んだのではないかと考えている。特に、冒頭から法律と憲法の意味と目的を、私たちの実生活との関連を踏まえ説明した授業は、現実社会を生きる生徒が実体験を踏まえ法律を理解する上で有意義なものとなったのではないかと考えてる。生徒の授業への評価は総じて、良好なものとなっているのは、そうした噛み碎いた説明と実体験に基づく内容の説明及び、授業構成への工夫の結果と受け止めている。

### II. 2018年度に向けての取り組み

2018年度担当予定科目名：建築法規

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。) 2017年度の当授業は、私が着任してから初年度の授業ということもあり、試行錯誤をしながらの授業となった。2018年度は、講義型の授業構成に、アクティブラーニングの要素を取り入れ、生徒にさらに考えさせる授業内容に少しシフトしていくたいと考えている。内容がハードな部分も多いため、生徒の学習意欲が低下しがちであることから、生徒自身が積極的に授業参加を行える授業内容としていく予定である。